令和５年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立入谷中学校

校長 小出　泰隆

１　学校教育目標

進んで自らをきたえ、将来の自己実現のために意欲的な人間を育てる　１　自ら学び、深く考える人。２　きまりを守り、思いやりのある人。
３　体をきたえ、ねばり強い人。教育方針　笑顔があふれる、生徒一人ひとりの居場所がある学校

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○明るく笑顔があふれる学校　○規律ある、安全・安心な学校　○自分の居場所がある学校
○児童・生徒像	○自ら学び、自ら発言、自ら行動する生徒　○笑顔で挨拶がかわせる生徒　○人とのコミュニケーションが取れる、自己肯定感と自尊感情が高い生徒
○教師像	○学ぶ意欲を引き出し、深く考えさせる授業を実践できる教師　○常に危機感を持ち、課題解決に向け、組織的に行動できる教師 ○公平・公正で保護者・地域から信頼される教師　○自己の授業力向上を常に目指し、日々研修・研究を実践する教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

学校の現状：昨年度、感染対策規制緩和により、行事等が計画通り実施され、生徒はメリハリのある学校生活を送ることができた。生徒と教員の関係も良好で大変落ち着いた学校生活を送ることができた。「できるを増やす」を合い言葉に、小規模校の強みであるフットワークの軽さを活かし、「わくわく学習プロジェクト」と称し、様々な補充に取り組んでいる。定着度確認テスト、区調査においても達成基準に達しておらず、学年によっても差が出てきている。学校不適応生徒の割合が多く別室登校対応を組織的に行う必要がある。地域の行事は中止となったがしっかり学校を見守っている。

【前年度の成果と課題】

成果　○生徒会活動が自主的に行われ、生徒会朝礼が充実した。（先生講話・校歌斉唱など）
○「わくわく学習プロジェクト」が定着してきた。学校独自の区調査、年度末確認テストにおいても正答率が伸び悩んでいる。生徒の実態に即した、補習の実施方法の再検討を行う。「読書の時間」年間の実施。貸し出し数が一気に増えた。また、ブックトークを行い、表現力の育成にも取り組んだ。
○体力向上として、「入谷中体操」が定着してきた。
○ダイバーシティ委員会を立ち上げ、計画的、組織的に LGBTQ２を中心に多様性について理解を深める取り組みができた。学校の決まりの内容について必要性など一緒に決めることができた。

課題　○「わくわく学習プロジェクト」の「読書の時間」を充実させ、語彙力、読解力を向上させ、全教科の安定した学力の定着・向上を図る。
○足立スタンダードを定着させ「ねらい」と「振り返り」を徹底する。１人１台のタブレットを取り入れた授業を展開し、授業改善、評価活動の実施。
○心の教育として、いじめや不登校生徒の支援をさらに関係機関も含め、深めていく。
○障がい者スポーツボッチャの普及を継続し、障がい者理解を深める。
○保護者・地域の協力をもっと得られるよう情報発信をしていく。（ホームページの充実）　○生徒数の確保。

４　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	心の教育　（一人ひとりの居場所がある学級・学年　自己肯定感と自尊感情の大会生徒の育成）	○	○	○	○	○
3	豊かに生きる生徒の育成（国際的・文化的・健康的に生きる教育の充実）	○	○	○	○	○

５　令和５年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

Ａ　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
読解力向上と授業改善による確かな学力定着	令和５年度　区学力調査 通過率　６０％ 年度末到達度確認テスト 正答率　６０％	令和５年度　区学力調査 通過率　４５．５％ 年度末到達度確認テスト 正答率　●●％（２月実施）	全学年の平均は 45.5%であるが 2，3 年生のみ数学、英語平均は 37.7%とさらに下がる。特に 2 年の英語と３年の国語・数学は課題である。	△

Ｂ 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容（誰が、何を、どのように）	達成確認方法	達成目標（＝数値）（いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
１継	授業改善	全教員	毎日	・足立スタンダードの徹底 ・１人１台のタブレットを取り入れた授業展開 ・主体的・対話的で深い学びの実現　評価方法	授業観察 各学力調査 定期考査 生徒による授業アンケート	各テスト正答率６０％以上 肯定的意見 ９０％	定期考査３科平均 ５５．８％ 授業肯定的意見 ９８％	授業は落ち着いてよい雰囲気でできている。発表の場が少ないことが課題である	◎
２継	読書の時間	全学年	年間 ２０回	学年毎、図書室で読書の時間を３０分確保。読解力の向上を目指す。ブックトーク	貸し出し図書の増冊	生徒一人あたり年間貸し出し数２０冊。	年度途中から曜日ごとの実施から月ごとの実施に変更した。 貸出数平均６冊	貸出数は達成できていないが図書室に来る回数は確実に増えた。	○
３継	朝学習	全学年 国語中心	毎日	毎朝、語彙力の育成に向け、漢字の学習を実施。 【使用教材】キュビナ等	漢字・英単語・計算コンテスト	正答率７０％以上	コンテスト未実施	時間は短いが確実に確保できる来年度以降効果的に活用する	◎
継４	わくわく補習教室	全学年及び正答率６０％未満対象　５教科	考査前面談週間	テスト範囲の復習・質問教室。短縮授業時の補充教室	定期考査 年度末到達度テスト	定期考査正答率 3 科平均 60% 正答率 60%	定期考査３科平均 ５５．８％ ●●％２月末実施	計画通りでき、生徒の出席率も高かった。	◎
継５	サマースクール	全学年 希望者 ５教科	夏休み 6 日間	前半期の内容でのつまずきの解消および定期考査での理解不足を補充	漢字・英単語・計算コンテスト	定期考査正答率 3 科平均 60% 正答率 60%	各コンテスト 正答率４０％前後	二極化が著しい。取り組みの差が顕著であった。	◎
６継	わくわくクラブ	全学年英数・数学　正答率 60%未満	週４日 放課後 20 分	【指導体制】英語科・数学科及び学年　AI ドリル	定期考査 年度末到達度テスト	正答率 60% 定期考査正答率 3 科平均 60%	定期考査３科平均 ５５．８％ ●●％２月末実施	計画通り実施できた。数字には表れていない。改善を検討する。	◎
７継	夕焼け教室	全学年	放課後 毎日	放課後の図書館で自主学習	利用人数把握	各学年２割以上	考査前、受験期に集中する。年間で平均すると１日２．５人	図書館の活用を継続啓発	○

重点的な取組事項－２	心の教育　（一人ひとりの居場所がある学級・学年　自己肯定感と自尊感情の大会生徒の育成）

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小規模校の強みを活かし、全教職員で全校生徒の生徒理解を深め、生徒に学校生活の中で役割を果たし、達成感を味合わせ、自己肯定感を高め、自己実現に向けて意欲を育てる。	保護者、生徒学校評価アンケート「学校はいじめのない学校づくりに努めている」「教員の対応は丁寧である」肯定的な意見９０％	保護者、生徒学校評価アンケート肯定的意見 いじめ　　８９％ 教員の対応　９８％	校長の学校方針を教職員が具現化している。継続実施。	◎

自己評価の際に記入

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権教育の充実	○道徳授業時数確保 ○道徳授業地区公開講座の開催 ○多様性理解の研修	①「考える道徳」「議論する道徳」など道徳授業の充実 ②性の多様性だけでなく、様々な多様性について考えを深める取り組み	多様性について継続的に教員の委員会を立ち上げ、LGBTQ を中心に性自認、性指向について道徳の授業を全学年で実施。	学校の決まりの見直しに伴い、委員会を立ち上げたことで、生徒と話し合いを深めることができた。	◎
生徒理解の充実	○年３回の教育相談の実施 ○週１回の生活指導部会・特別支援委員会の実施	①　ＳＣよる１年生全員面接。 ②　校長面談（通年全生徒） ③　教育相談（3 回・全教員） ④　　生活指導部会、特別支援委員会で情報共有	①　②③④計画通り実施。	小規模校の強みを活かし、全職員で全生徒理解を進められた。継続実施。	◎
学級経営の充実	○行事後の事後学習発表活動 ○年２回の QU の実施 ○個別支援計画の作成	①校内研修でＱＵ講習会。分析結果の情報共有 ②個別支援計画の作成、特別支援教室と連携 ③目的を明確にした学年行事の運営（事前学習・発表を含めた事後学習）	ウェブ QU により、集計結果がすぐにわかり、分析がしっかりでき、全体で研修ができた。 また、要支援の生徒への聞き取りも実施することができた。 ③行事の事後学習を全校生徒に公開を実施。	特別支援委員会を週１回に実施。全担任が参加することにより特別支援教室との連携がスムーズにでき支援計画の見直しなどスムーズにできた。継続実施。	◎
小中連携の充実	○年間７回の連携の取り組み	①年６回。授業検討協議会。 ②中学校体験入学の実施 ③合同研修会 行事の共有	行事の共有にはならなかったが、他は予定通り実施。	テーマに沿った授業公開が実施でき成果と課題を共有することができた。	◎
生徒会活動の充実（ボランティアマインドの醸成）	○実施後のアンケート満足度９０％	①生徒会朝礼（１０回） ②朝のあいさつ運動 ③ボランティア清掃活動 ④　花植え活動 ⑤ＰＴＡ・地域行事への参加	①　②③④⑤は計画通り実施。 小学校への学習ボランティアが復活できた	コロナが５類に移行され様々なボランティア活動が復活してきた。積極的に参加を啓発する。	◎

重点的な取組事項－３	豊かに生きる生徒の育成（国際的・文化的・研狂的な教育の充実）

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
オリ・パラ教育の３年間の取り組みをレガシーに残るまとめをし、グローバルな思考と、日本人としての誇り、豊かなスポーツライフを実現し、生涯にわたる健康・体力の保持増進する態度を育て、より豊かな生き方の自己実現を目指す。	学校評価　保護者アンケート 「経営方針は本校の実態に合っている」肯定的意見　９０％	学校評価　保護者アンケート 「経営方針は本校の実態に合っている」　肯定的意見　９６％	保護者の方には理解を得ている。生徒の将来を見据えて様々なことに取り組んでいく。	○

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
オリンピック・パラリンピック教育	○オリ・パラコーナーの設置、充実	①日本文化の体験（和楽器・茶道等） ④スポーツの歴史や国の事情等の調べ学習。	● 茶道体験は中止。 ● パラスポーツ応援校指定の際に購入した「ボッチャ」セットを活用したパラスポーツの普及	小学生体験入学の時に実施。今後も生徒会主催によるボッチャ大会を企画中。	○
体力・健康の保持増進	○体力テストの結果 全種目平均以上 ○「足立区 beyond　2020 マイベストプログラム」の活用	①入谷体操の導入。体育科を中心に運動部においても、準備・補強運動を工夫 ② 結果の分析・日常生活への活用	①運動会で披露。定期的な実施を計画中。	コロナ禍の自粛により体力が低下している。計画的・組織的に運動をする機会が必要である。	○
「食育」活動	○「食育便り」の発行 ○授業、試食会、研究発表の実施	①栄養士の食育啓発活動。 ③ 栄養士、養護教諭による授業実施 ③給食試食会１回 ④保健給食委員会文化祭研究発表	①給食便り「すくうるらんち」による食材、食文化の啓発活動継続実施。 ④ 給食試食会　中止。 ⑤ １０月に実施。	食育として「すくうるらんち」を継続実施。試食会も状況により再開していく。	◎
キャリア教育	○各学年の校外学習の実施。	発達段階に応じた取組 １年 職業調べ　エコプロ ２年 職場体験　ＴＧＧ 上級学校訪問 ３年 進路対策（自己 PR カード）	１年エコプロ中止 ２年職場体験、TGG　上級学校訪問を実施。 ３年　PR カードにより全員校長面接実施	コロナの五類の移行によりほぼ予定通り実施ができ生徒にとって貴重な体験となった。	◎

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

○重点的な取り組み事項－１　～学力向上アクションプラン～

学校評価生徒アンケート「各教科は工夫されてわかりやすい」という設問で全教科９４％以上の肯定的意見であったが学力の定着に至っていない。学力向上アクションプランの取り組みには、生徒は意欲的に参加している。本年度も３年生に受験対策として、補修の枠を拡大し、都立の過去問題に取り組ませ、回答の解説を行った。また、数字的結果だけでなく、区学力調査意識調査の結果を一覧表にまとめ、教職員に配布し、生徒の実態把握に努めさせた。

＜課題及び解決の方向性＞

＜課題＞

区学力調査、年度末到達度確認テストとも達成基準をクリアできなかった。習得に時間がかかる生徒も多く、なかなか活用、探求まで至らないことが多い。生徒の実態に合ったきめ細かい補充の必要性がある。

＜対策＞

足立スタンダードを基本に主体的・対話的に学ぶ授業を展開し、ICT を活用し生徒の興味・関心を高め、授業改善をさらに進める。

「学力向上アクションプラン」は生徒の実態に合わせて実施することが必要不可欠である。既習の基本的な学習内容をコンテスト形式に実施した。その結果、定着していない生徒が多いことが分かった。コンテストを積み重ね、自分の定着度を知ることにより今後の、家庭学習の仕方を自覚させることにした。来年度は、短時間ではあるが時間が確保できる朝学習の時間を活用し実施していくことを検討中である。

○重点的な取り組み事項－２　～心の教育　一人ひとりの居場所がある学級・学年　自己肯定感と自尊感情の高い生徒の育成～

小規模校の強みを活かし、道徳授業、教育相談、WEBQU を通しての全教職員で全校生徒の理解を深めることができた。特別支援教育も週１回の特別支援委員会で通常学級と特別支援教室の連携を図ることにより、個にあったきめ細かい支援を行うことができた。不登校生徒にもきめ細かい支援を組織的にできた。小中連携教育はテーマ「ICT を活用した授業改善」に沿った公開授業を行い、成果と課題を共有することができた。また、多様性について、計画的・組織的について考えを深めることが継続できた。

＜課題及び解決の方向性＞

様々な方法で生徒理解を進め、課題がある生徒に対応することができた。また道徳の授業で「考え、議論する道徳」を実践し、様々なことを考えることができる心の素地を創る。不登校の場合、少人数なら穏やかに生活できるのではないかと選択してくる場合が多い、年度当初から計画通り実施し、学力の定着、向上と共に小規模校の強みを活かし、生徒と向き合う時間を確保し、生徒一人ひとりにきめ細かく、丁寧な指導・支援を全教職員で推進していく。

○重点的な取り組み事項－３　～国際的・文化的・健康的な教育の充実　　（豊かに生きる生徒の育成）～

パラスポーツ応援校としての取り組みの成果を活かし、障害者理解を進め、オリ・パラ教育を進めてくることができた。また「入谷中体操」が定着し、体力向上の意識を高めることができ、豊かなスポーツライフを実現することを期待している。キャリア教育ではほぼ計画通り体験活動が実施することができ、貴重な体験ができた。

＜課題及び解決の方向性＞

○知・徳・体のバランスの良い教育が求められる。教科の学習だけでなく、体力向上、キャリア教育を計画的にカリキュラム編成していく。オリ・パラ教育のレガシーとして「ボッチャ」の普及に取り組む。またＳＤＧｓを意識したカリキュラムに取り組む。

（２）保護者や地域へのメッセージ

○学校評価保護者アンケート令和４年度とほぼ同じような肯定的なご意見をいただきました。大変うれしく思っています。１人に１台配布されるタブレットを活用し家庭学習だけではなく、ご家庭との連携にも役立てていきたいと思っています。良いところはさらに伸ばし、改善すべきところは改善できるように取り組んでまいります。今後ともご協力をお願いいたします。

○地域の方におかれましては、本年度から中止になっていた地域行事が復活してまいりました。生徒のボランティアなど全面的に協力させていただきます。子供たちを温かく見守っていただけますようよろしくお願いいたします。

○多様性理解の取り組みにより、学校の決まりを変えていきます。男女の枠を超えて、社会の変化に対応してまいります。

（３）その他（学校教育活動全般について）

○小規模校として強みを発揮できるが、これ以下の生徒数では弱みになる。生徒数増加を、最有力課題とし確保に取り組む。

○不登校、別室登校など学校不適応生徒が各学年に存在する。きめ細かく、粘り強くスモールステップでも好転に向かうよう、関わりを継続していく。